浜田漁港周辺エリア活性化計画(素案)

令和元年 10月

浜田市

目 次

浜	田漁港周辺エリア活性化計画策定にあたって	1
	1. 計画策定の背景と目的	1
	2. 計画の位置づけ	2
1.	浜田漁港エリアを取り巻く現状と課題	4
	1-1. 浜田市の概要	4
	1-1-1. 浜田市の現況	4
	1-1-2. 人口動態	5
	1-1-3. 産業構造	7
	1-2. 浜田市の水産業の現状と課題	9
	1-2-1. 漁業就業者・経営体の推移	9
	1-2-2. 水揚げ動向	9
	1-2-3. 水産加工業の動向	12
	1-2-4. 主要魚種の動向	13
	1-2-5. 水産業振興の課題	
	1-2-6. 水産業振興に向けた取組み	
	①基幹漁業の構造改革の推進	
	②魚価の向上・魚食普及による販売力の強化	
	③水揚拡大対策	
	④漁業後継者の育成・雇用の確保対策	
	⑤市場施設、設備等の整備	
	⑥漁港エリアの活性化対策	
	1-3. 浜田市の観光の現状と課題	
	1-3-1. 入込客数の推移と内訳	
	1-3-2. 宿泊者の内訳	
	1-3-3. 観光施設の分布	
	1-3-4. 入込客数と特徴的な観光資源	
	1-3-5. 観光振興に向けた取組み	
	1-3-6. 観光振興の課題	23
2.	しまねお魚センター((株)はまだ特産品センター)の経営状況	24
	2-1. (株) はまだ特産品センターの経営状況の推移	24
	2-2. しまねお魚センターの利用者の声	27
	2-3. 浜田市民の意向	29
	2-3-1 調査概要	29

	①目的	
	②実施時期	29
	③調査対象	
	④調査方法	
	⑤配布数/回収数	29
	⑥調査内容	29
	2-3-2. 調査結果	30
	①鮮魚に対する高い購買二ーズ	30
	②しまねお魚センター及び浜田市公設水産物仲買売場の利用実態	31
	③「どんちっち」ブランドの定着	32
	④新たな水産品販売施設に対する高い期待	33
	2-4. 経営悪化の要因	35
3.	浜田漁港エリアの特性	37
	3-1. 浜田漁港周辺エリアの概要	37
	3-2. 水産関連施設の現状	38
	3-2-1. 浜田漁港周辺エリアの水産関連施設	
	3-2-2. 高度衛生管理型荷さばき所の整備	39
	3-2-3. 水産関連施設の課題	40
	①高度衛生管理荷さばき所の整備	40
	②冷凍冷蔵庫の整備	41
	③水産加工業の振興策	41
	④施設の老朽化対策	41
	3-3. 浜田漁港エリアの課題・ポテンシャル	42
4.	県外他地域の取組み	43
	4-1. 調査概要	43
	4-2. 考察	45
	①漁港機能の強化による付加価値向上(漁港・市場機能の強化)	45
	②高鮮度の海産物販売を通じた魅力づくり(集荷・販売力の強化)	45
	③食育・魚食普及活動の推進(観光及び地域活性化の推進)	46
5.	浜田漁港の目指すべき姿と取組方針	47
	5-1. 将来のあるべき姿	47
	5-2. 浜田漁港周辺エリア活性化計画の体系	48
	5-3. 取組方針(3つの柱)	49
6.	浜田漁港の活性化に向けて推進する取組み	50

6-1. 漁港・市場機能の強化	50
6-1-1. 市場施設、設備等の整備	50
①高度衛生管理型荷さばき所の整備	50
②高度衛生管理体制の構築	53
③冷凍冷蔵庫の整備	54
6-1-2. 漁港の安全性の向上	55
①施設の老朽化対策	55
②災害への対応	55
③交通網の整備による利便性の向上	55
6-2. 集荷・販売力の強化	56
6-2-1. 水揚高の維持・増大	56
①地元漁船の存続対策	56
②外来船の誘致	56
③漁業資源の確保	57
④担い手の確保	57
⑤瀬戸ヶ島埋立地の活用	57
6-2-2. 水産物の付加価値向上	58
①浜田漁港産ブランドの拡大と発展	58
②水産加工業の振興(HACCP 対応の推進)	59
③産地一次加工の検討策の推進	59
④ 6 次産業化の推進	59
6-2-3. 水産物の販路拡大	60
①PR 活動・マーケティングの推進	60
②流通機能の強化	60
③海外市場の開拓	60
6-3. 観光及び地域活性化の推進	61
6-3-1. 賑わいのある集客施設の設置	61
①山陰浜田港公設市場による活性化	61
6-3-2. 観光と連携した取組み	65
①水産資源を活用した取組み(食や体験)	65
6-3-3. 「みなとオアシス」による地域振興	66
①浜田港一体となった産業振興、賑わい創出	66
6-3-4. 食育・魚食普及活動の推進	67
①学校給食等での食育の推進	67
②継続的な水産イベント等による魚食普及活動	67
6-3-5. 推進する取組みの実施体制	68
7-1. 推進体制	69
8-1. 要綱	70
8-2. 名簿	71

	8-3. 活動実績	-
9.	資料 73	;
	9-1. 2-3. 浜田市民の意向アンケート調査の結果詳細73	}
	9-2. 県外他地域の取組	ŀ
	9-3. 仲買売り場が移転する新たな施設に期待する役割と施設機能についての検討会の意見10	1

浜田漁港周辺エリア活性化計画策定にあたって

1. 計画策定の背景と目的

浜田漁港は、島根県では最大の水揚量を誇る漁港である。漁港の歴史は、古く応神天皇の世(270年頃)に始まるが、浜田漁港周辺エリアが水産の町として急激に発展したのは明治に入ってからであり、特に1952年(昭和27年)に第3種、1969年(昭和44年)に特定第3種漁港に指定され発展し、今日では西日本有数の漁業基地に成長した。本地区の漁業は、古くから底魚を対象とする沖合底びき網業と浮魚を対象とした中型まき網漁業が基幹漁業であり、その他には、一本釣り、定置網漁業等が営まれており、陸揚げされる魚種は多岐にわたっている。

しかし、水揚量の減少、魚価の低迷、市場施設の老朽化等により、全国の水産業を取り巻く 情勢は厳しい状況にあり、浜田市でも水産業の発展を図るために種々の課題の克服が必要な局 面を迎えている。

浜田市では、水産物の PR 施設である「しまねお魚センター」の低迷や「公設水産物仲買売場」の老朽化、沖合底びき網漁船 2 ヶ統の事業停止等、種々の課題がある一方で、衛生管理に対応した新たな荷さばき所や「山陰浜田港公設市場」の整備等、活性化に向けた取組みが進んでおり、安全・安心な水産物の供給や水揚量の増加、魚価の安定と向上が期待される。

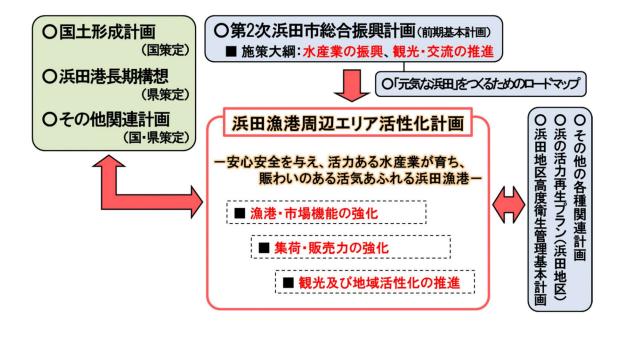
この機会をチャンスとして捉え、過渡期を迎える「浜田漁港周辺エリア」を、多くの方が訪れる活気のあるエリアとするために、このエリアを核とした水産業の将来ビジョンを描き、具体的施策に取組む必要がある。

このような情勢のもと、浜田市では関係者による「浜田漁港周辺エリア活性化検討委員会」 (以下、「検討委員会」)を立ち上げ、浜田漁港周辺エリアの活性化策について検討を重ね、本 計画を策定した。

2. 計画の位置づけ

浜田漁港周辺エリア活性化計画(以下、本計画)は、「第2次浜田市総合振興計画(前期基本計画)」(平成28年3月策定)を上位計画とし、「『元気な浜田』をつくるためのロードマップ」、「浜田地区高度衛生管理基本計画」、「浜の活力再生プラン(浜田地区)」等関連する諸計画を踏まえて策定している。

■ 本計画と上位計画との関係



■ 本計画に関連する主な上位計画の整理

計画等の名称	計画策定 主体	具体内容
第 2 次 浜田市総合振興計画 (前期基本計画: H28年~R3年)	市	7 つのまちづくり大綱が掲げられており、そのうち、「活力ある産業を育て、雇用をつくるまち」の中で「水産業の振興」が挙げられている。また、既存産業とのネットワーク化をキーワードとした「観光・交流の推進」を重要な柱としている。
「元気な浜田」をつくる ためのロードマップ	市	第 2 次総合振興計画のまちづくり大綱のうち、特に重点的に取組むべき事業をはじめ、市政振興運営に係る重要な事項について、具体行動計画を示している。 「水産業の活性化」の項目では、「山陰浜田港水産物の販路拡大対策」、「しまねお魚センターの活性化」、「漁港エリアの活性化対策(瀬戸ケ島埋立地活用)」等について、具体施策及び成果目標を設定している。
浜田地区高度衛生管理基本計画	市	水産物の高度な衛生管理を実現するための 基本的な考え方等を示した計画であり、陸揚 げから搬出までの一貫した衛生管理につい ての方針を定めている。
浜の活力再生プラン(浜田地区)	県	漁業所得の向上を通じた漁村地域の活性化を目指し、漁業者が主体となり、5年間での具体的な取組を実行するために策定された。また、関連する施策(補助事業等)の優先採択等が受けられる。
浜田港長期構想	県	浜田港の担うべき役割を整理し、長期的視点 (20~30年後)に立った、島根県による港 湾整備の施策等を検討している。
国土形成計画(全国計画)	国	国土の利用、整備及び保全を推進するための総合的かつ基本的な計画であり、この計画に基づき、「浜田市国土利用計画」が策定されている。

資料:各種計画の内容をもとに作成

1. 浜田漁港エリアを取り巻く現状と課題

1-1. 浜田市の概要

1-1-1. 浜田市の現況

浜田市は、島根県西部(石見地方)の中央に位置しており、東西 46.4km、南北 28.1km、面積 690.68km²を誇る、県西部の中核都市である。2005年(平成 17年)に、浜田市、金城町、旭町、弥栄村、三隅町の 5 市町村が合併し、現在の浜田市が誕生した。

浜田市は、「石見神楽」をはじめとする伝統文化や「しまね海洋館アクアス」等の豊かな自然を活かした多様な地域資源を有しているほか、県内



唯一の国際貿易港かつ国土交通省の日本海側拠点港¹にも選定されている浜田港の整備も充実している。

また、「浜田漁港」を中心とした水産業が市の基幹産業を担っており、地域振興や文化振興の面でも重要な役割を担っている。

■ 石見神楽



■ しまね海洋館アクアス



¹中国・韓国・ロシア等日本海周辺の対岸諸国の経済発展等を我が国の成長に取り込みつつ、日本海側各港湾の役割の明確化と港湾間の連携を図ることにより、日本海側港湾全体の国際競争力を強化し、ひいては、日本海側地域の経済発展に貢献すること及び、東日本大震災を踏まえ、太平洋側港湾の代替機能の確保により災害に強い物流ネットワークを構築することを目的として国土交通省が機能別に募集したもの。

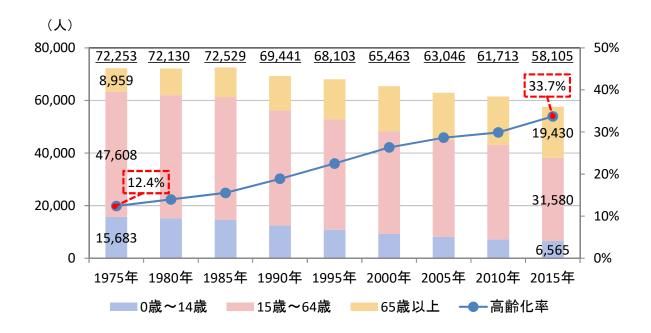
1-1-2. 人口動態

①人口および高齢化率の推移

2015 年(平成 27 年)の国勢調査によれば、浜田市の総人口は、58,105 人となっており、 年齢階層別に見ると、0歳~14歳の年少人口が6,565 人、15歳~64歳の生産年齢人口が 31,580 人、65歳以上の高齢者人口が19,430 人となっている。

1975年(昭和50年)以降の人口推移を見ると、1985年(昭和60年)の72,529人をピークに、1990年(平成2年)以降は人口減少が続いている。近年では、年少人口及び生産年齢人口の減少が進行している一方で、65歳以上の高齢者人口は増加傾向にあり、2015年(平成27年)時点で、高齢化率は33.7%に達している。

■ 浜田市の年齢階層別の人口動態及び高齢化率

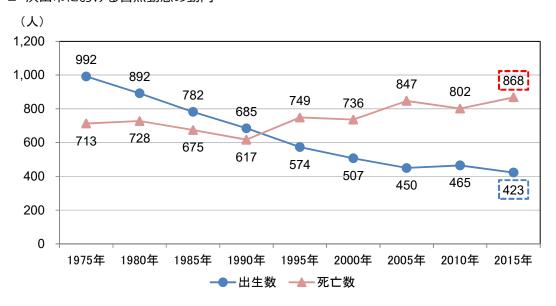


資料:国勢調査(昭和50年~平成27年)

②自然動態及び社会動態の動向

浜田市における 2014 年(平成 26 年)の出生数は 423 人であり、死亡数は 868 人となっている。1990 年(平成 2 年)までは、出生数が死亡数を上回っていたものの、1995 年(平成 7 年)以降は、死亡数が出生数を上回り、自然減の状態が続いている。

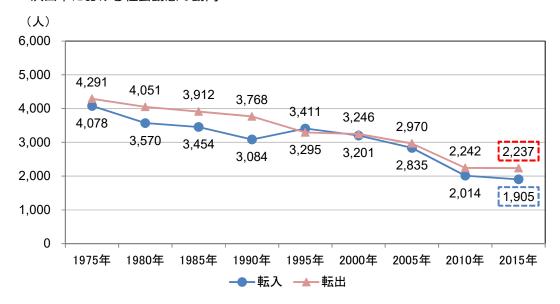
■ 浜田市における自然動態の動向



資料:「浜田市まち・ひと・しごと創生総合戦略」より

また、社会動態の動向を見ると、人口減少等に伴い、転入・転出ともに次第に減少傾向にある。社会増減では、1990年(平成2年)に社会減が最大となり、1995年(平成7年)には、一時的に社会増となったものの、その後は再び、社会減の状態が続いている。

■ 浜田市における社会動態の動向



資料:「浜田市まち・ひと・しごと創生総合戦略」より

1-1-3. 産業構造

国勢調査(平成 27 年)によると、浜田市の総就業人口は、28,257 人となっており、産業別にみると、第一次産業が2,013 人(7.1%)、第二次産業が5,830 人(20.6%)、第三次産業が20,046 人(70.9%)、その他が368 人(1.3%)となっている。

第一次産業における漁業の就業人口は 271 人(1.0%)であるが、2017 年(平成 29 年) における浜田漁港の水揚金額は 56.5 億円となっている。

また、農林水産省が2013年(平成25年)に発表した漁業センサスでは、市内の水産加工場が50か所、就業者が816人となっており、第二次産業における製造業の就業人口(3,287人)のうち、浜田漁港で水揚げされる原料を使用した水産物の加工業に従事している労働者が、多くの割合を占めていることが伺える。

■産業別就業人口割合

	職業分類	就業人口(人)	割合 (%)
	農業,林業	1,742	6.2%
第一次産業	うち農業	1,604	5.7%
	漁業	271	1.0%
	第一次産業合計	2,013	7.1%
	鉱業,採石業,砂利採取業	24	0.1%
第二次産業	建設業	2,519	8.9%
另一 次 庄未	製造業	3,287	11.6%
	第二次産業合計	5,830	20.6%
	電気・ガス・熱供給・水道業	286	1.0%
	情報通信業	181	0.6%
	運輸業, 郵便業	1,354	4.8%
	卸売業, 小売業	4,284	15.2%
	金融業,保険業	546	1.9%
	不動産業,物品賃貸業	312	1.1%
	学術研究、専門・技術サービス業	681	2.4%
第三次産業	宿泊業,飲食サービス業	1,437	5.1%
	生活関連サービス業、娯楽業	1,099	3.9%
	教育, 学習支援業	1,418	5.0%
	医療, 福祉	4,665	16.5%
	複合サービス事業	475	1.7%
	サービス業(他に分類されないもの)	1,593	5.6%
	公務(他に分類されるものを除く)	1,715	6.1%
	第三次産業合計	20,046	70.9%
その他	分類不能の産業	368	1.3%
	就業人口合計		28,257

資料:国勢調査(平成27年)

島根県内の他自治体と比較しても、水産加工場数・就業者数ともに県内第1位の規模を誇っており、水産加工業が浜田市における主要な産業の一つとなっていることが分かる。

■水産加工工場数及び従業員数

自治体名	工場数(箇所)	県内順位	従業員数(人)	県内順位
松江市	32	2位	517	2位
浜田市	50	1位	816	1位
出雲市	31	3位	337	3位
益田市	2	9位	-	_
大田市	18	4位	196	5位
安来市	1	10位	-	_
江津市	4	7位	206	4位
雲南市	1	10位	_	_
奥出雲町	_	_	_	_
飯南町	_	_	_	_
川本町	_		_	_
美郷町	_	_	_	_
邑南町	1	10位	-	_
津和野町	1	10位	_	_
吉賀町	_	_	_	_
海士町	6	6位	53	8位
西ノ島町	3	8位	82	6位
知夫村	_	_	_	_
隠岐の島町	9	5位	81	7位
島根県全体	159	_	2432	_

資料:漁業センサス(平成25年)

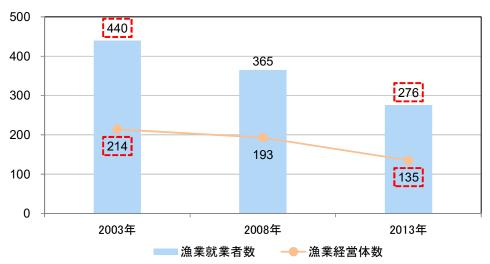
1-2. 浜田市の水産業の現状と課題

1-2-1. 漁業就業者・経営体の推移

漁業センサス(農林水産省)によると、2013年(平成25年)時点で、市内の漁業従事者数は276人、漁業経営体数は135経営体となっている。過去の数値を見ると、2008年(平成20年)では、漁業従事者数365人、漁業経営体数193経営体、2003年(平成15年)では、漁業従事者数440人、漁業経営体数214経営体となっており、漁業従事者数、漁業経営体数ともに減少傾向にあることが分かる。

■ 漁業就業者・経営体の推移

(人・経営体数)



資料:農林水産省 漁業センサス (平成 15-25年)

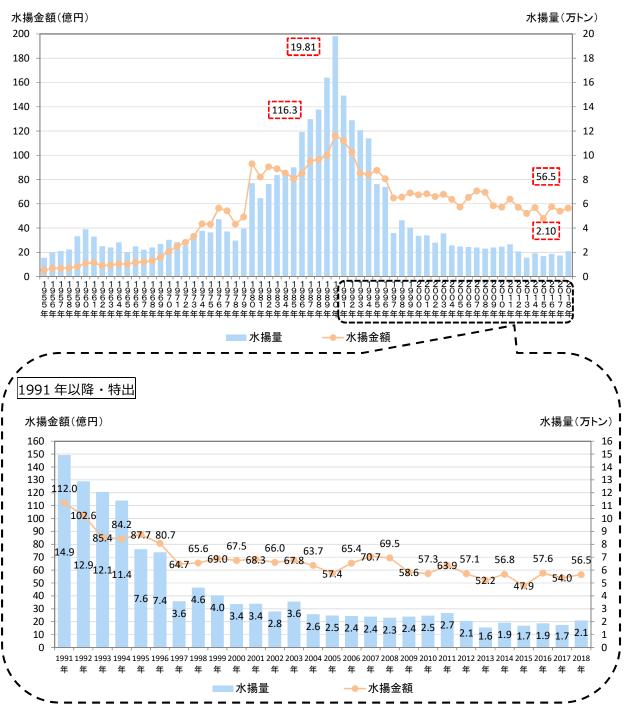
注:2003年の値は、旧浜田市と旧三隅町の数値を合計

1-2-2. 水揚げ動向

2018 年(平成 30 年)の浜田漁港の水揚量は約 2.1 万トン、水揚金額は約 56.5 億円であった。1955 年(昭和 30 年)以降の推移を見ると、1980 年代までは、水揚量、水揚金額ともに概ね増加傾向にあり、1990 年(平成 2 年)時点では、水揚量約 20 万トン、水揚金額約 116 億円と過去最高を記録している。

しかし、1991 年(平成3年)以降は水揚量、水揚金額ともに減少傾向にあり、とりわけ、 1997年(平成9年)以降は、水揚量5万トン未満、水揚金額は60億円前後で推移しており、 最盛期に比べて大幅に減少している。

■ 浜田漁港における水揚金額及び水揚量の推移

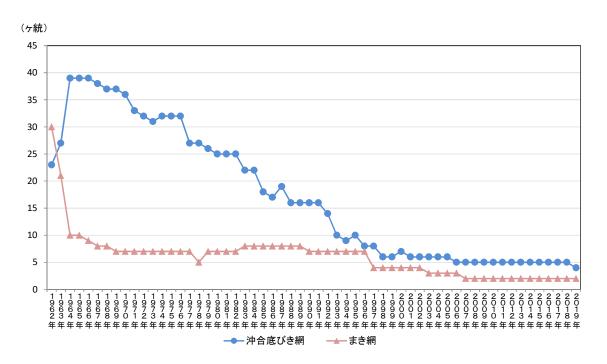


資料:浜田市水産業振興協会調べ

浜田漁港に所属する沖合底びき網とまき網の船団数は、2019 年(令和元年)時点で、沖合底びき網は4ヶ統、まき網は2ヶ統である。推移をみると、沖合底びき網の船団は、1964 年(昭和39年)の39ヶ統をピークに減少傾向が続き、2006 年(平成18年)に5ヶ統となっている。近年は船団数に変化はなかったが、2019年(令和元年)に1ヶ統減少している。

まき網の船団数は、1962 年(昭和 37 年)は30ヶ統であったが、大きく減少し1964年(昭和 39 年)には10ヶ統となっている。それ以降も増加した時期はあったものの、全体としては減少傾向であり、2007年(平成19年)に2ヶ統となっている。2007年(平成19年)以降は船団数に変化はない。

■浜田市における沖合底びき網とまき網の船団数の推移



資料:島根県農林水産統計年報及び浜田市水産業振興協会調べ

1-2-3. 水産加工業の動向

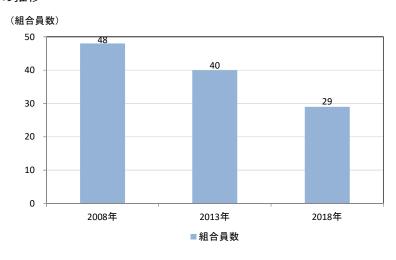
2013年(平成25年)時点で、水産加工場数は50工場で従業員数は816人である。推移をみると、水産加工場数は2003年(平成15年)から減少傾向にあり、10年間で15工場が減少している。また、水産加工場の従業員数も減少傾向にあり、10年間で62人が減少している。

■ 冷凍・冷蔵工場と水産加工場、及び、従業者数の推移



資料:漁業センサス (平成15年、平成20年、平成25年)

■ 加工事業者の推移

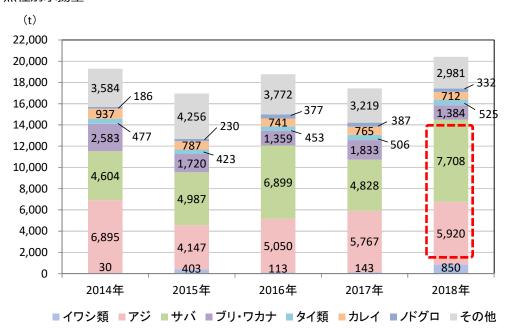


資料:浜田魚商協同組合より

1-2-4. 主要魚種の動向

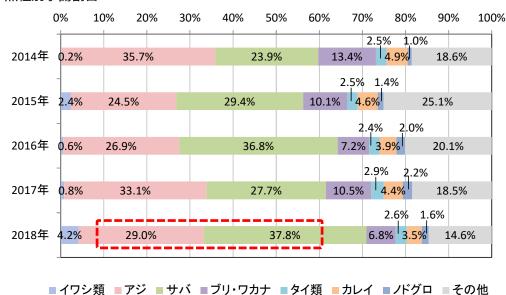
主な魚種別に水揚量を見ると、2018 年(平成30年)は、サバの水揚量が約7,700トンで最も多く、次いで、アジの水揚量が約6,000トンとなっている。また、サバ、アジを合わせた水揚量は、全体の7割近くを占める結果となっている。過去5年間の魚種別水揚量を見ても、サバ、アジの水揚量は各年ともに全体の半数以上を占めており、浜田漁港における主要な漁獲対象種であることが分かる。

■ 魚種別水揚量



資料: 浜田市水産業振興協会調べ

■ 魚種別水揚割合

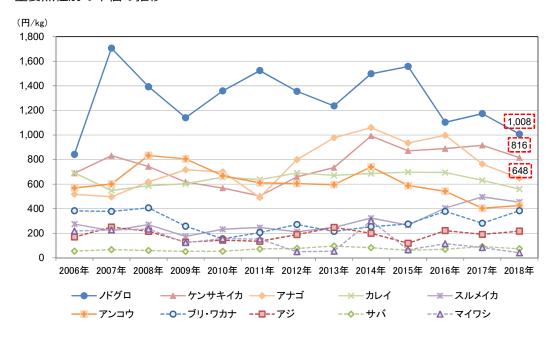


資料: 浜田市水産業振興協会調べ

また、魚種別の 1kg あたりの単価を見ると、2018 年(平成 30 年)は、ノドグロの単価が 1,008 円で最も高く、次いで、ケンサキイカが 816 円、アナゴが 648 円と続く。

近年では、「どんちっち」ブランドの浸透等により、一部の魚種では単価の上昇が見られるが、全体としては魚価の低迷が続いており、水揚量の維持とともに魚価向上も課題となっている。

■ 主要魚種別の単価の推移



資料:浜田市水産業振興協会調べ

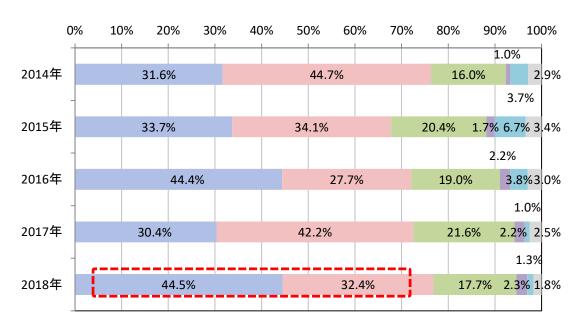
次に、漁業種別水揚量に着目すると、2018 年(平成 30 年)は、まき網(中型)が 9,283 トンで最も多く、次いで、まき網(大中型)が 6,767 トン、沖合底びき網 3,706 トンと続く。また、割合で見ると、まき網(大中型及び中型)が水揚量全体の約 7 割を占める結果となっている。

■ 漁業種別水揚量

種類	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
まき網(中型)	6,086	5,692	8,309	5,225	9,283
まき網(大中型)	8,593	5,752	5,179	7,269	6,767
沖合底引き網	3,086	3,446	3,550	3,720	3,706
定置網	189	294	417	384	479
イカ釣り	718	1,134	703	177	276
陸送	349	364	384	287	204
一本釣り	198	192	157	141	150
採貝藻	16	14	12	11	13
その他	60	65	51	233	176
合計	19,295	16,953	18,763	17,448	21,054

資料:浜田市水産業振興協会調べ

■ 漁業種別水揚割合



■まき網(中型) ■まき網(大中型) ■沖合底びき網 ■定置網 ■イカ釣り ■その他

資料:浜田市水産業振興協会調べ

1-2-5. 水産業振興の課題

水産業振興の課題として、水揚量及び魚価の低迷が続いている状況があるほか、操業している漁船の老朽化や少子高齢化に伴う漁業就業者の後継者不足等の問題もあり、水産業を取り巻く環境は依然として厳しい状況にある。また、沖合底びき網漁船の事業停止も重なり、更なる水揚高の減少が懸念されている。

浜田市では、「どんちっち三魚」、「山陰浜田港」、「浜田港四季のお魚」、「沖獲れ一番」といった、地元産水産物の高付加価値化(ブランド化)に向けた取組みを推進しており、アジやノドグロといった魚種のブランド化がすすんでいる一方、鮮魚の品質管理に関するルールの厳格化や効果的なブランド戦略の運用等において課題が生じている。

■「山陰浜田港」のロゴマーク

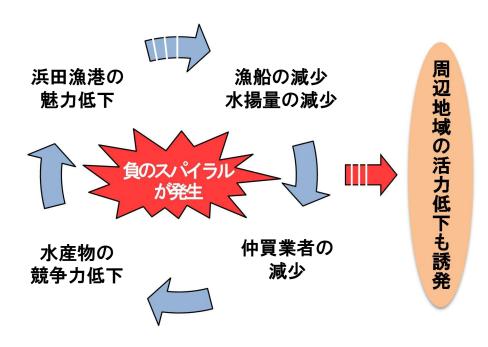


また、生産者・仲買人等の関係者間の連携が希薄といった課題もあり、水産業振興に向けた一体的な取組みが実施できていない現状もある。

加えて、物流の側面では、輸送トラック便の不足等に伴い、浜田漁港全体の物流機能が脆弱化しているほか、冷凍冷蔵庫の不足による水産物のストック機能が低下していることも大きな課題となっている。

様々な課題が混在している状況では、浜田漁港のポテンシャルがさらに低下する可能性もあり、さらには、浜田漁港を中心とした周辺地域の活力の低下を誘発することも懸念される。

■ 浜田漁港及び周辺地域の活力低下のメカニズム



1-2-6. 水産業振興に向けた取組み

浜田市では、地元漁船の存続対策をはじめ、魚価の向上、水揚拡大、後継者の育成・確保を 目的とした取組みを実施しているほか、市場等の施設・設備の整備、浜田漁港エリアの活性化 対策をハード・ソフト両側面から総合的に展開している。

①基幹漁業の構造改革の推進

- (1) 沖合底びき網漁船(5ヶ統)代船対策
 - 漁業構造改革総合対策事業(国事業)
 - …2013年(平成25年)4月より実証事業開始(1ヶ統)
 - 浜田地域沖合底びき網漁業構造改革推進事業(県・市事業)国の事業に準拠 ・・・・2012年(平成24年)から事業化(4ヶ統)
- (2) まき網漁船(2ヶ統)代船対策
 - 代船対策は検討中(国の漁船リース事業の活用を検討)

②魚価の向上・魚食普及による販売力の強化

- (1)「山陰浜田港」ブランドの推進
 - 「山陰浜田港」ブランドの PR(「山陰浜田港」水産物ブランド化推進事業)
 - 山陰浜田港お魚料理教室の開催
- (2) 水産ブランド「どんちっち」の推進(アジ・ノドグロ・カレイ)
 - ブランド推進団体「浜田市水産物ブランド化戦略会議」

③水揚拡大対策

- (1) 外来船誘致活動の実施
 - 浜田漁港活用推進事業
 - ・・・外来イカ釣り漁業団体等へ誘致活動
- (2) 栽培漁業及び資源管理型漁業の推進
 - 栽培漁業事業化促進事業
 - ・・・・ヒラメ稚魚放流 (事業主体:(公社)島根県水産振興協会)
 - 水産資源確保対策事業
 - ···アワビ稚貝、稚ウ二放流(事業主体: JF しまね浜田支所)

④漁業後継者の育成・雇用の確保対策

- 若者漁業者確保支援事業
 - ・・・学校新卒者または卒業後3年以内の若手漁業者の確保
- ふるさと漁業研修生育成事業
 - · · · U · I ターン者対象
- 新規自営漁業者定着支援資金貸付制度
 - · · · 自営漁業希望者対象
- 地域産業担い手育成支援業務
 - ・・・地域おこし協力隊制度の活用

⑤市場施設、設備等の整備

- (1) 高度衛生管理型荷さばき所の整備
 - 7号荷さばき所(まき網用)
 - ・・・2020年(令和2年)7月に供用開始予定
 - 4号荷さばき所(沖合底びき網用)
 - ・・・2022 年度(令和4年度)中に供用開始予定

(2) 冷凍冷蔵庫の整備支援

● 整備を行う企業等に対する支援を実施し、水揚高の増加や水産物供給体制の 充実を促進

⑥漁港エリアの活性化対策

- (1) 瀬戸ケ島埋立地の活用
 - 輸出も見据えた新たな水産加工事業としての活用を目指し、事業実施の核と なる企業を募集
- (2) しまねお魚センターの活性化、公設水産物仲買売場のあり方の検討
 - しまねお魚センターの土地・建物を取得し、老朽化した公設水産物仲買売場の機能を移設して活用

1-3. 浜田市の観光の現状と課題

1-3-1. 入込客数の推移と内訳

浜田市の観光入込客数は、1998年(平成10年)以降約150万人~200万人の間を推移している。2000年(平成12年)と2001年(平成13年)の入込客数が突出して多いのは「島根県立しまね海洋館アクアス」の開館が影響していると考えられる。近年の動向を見ていくと、2012年(平成24年)以降、入込客数は2015年(平成27年)を除いて、減少傾向にある。観光入込客の日帰り客と宿泊客の内訳を見ると、各年も日帰り客の方が大幅に多くなっている。その要因としては、有名な宿泊地が少ないこと、観光施設同士が比較的隣接しており、一度に訪問することが可能である反面、観光客の滞在時間が短くなることが考えられる。また浜田市には、浜田自動車道と山陰自動車道の2本の高速道路が通っている。交通の利便性が良い反面、浜田市を訪問する際に宿泊を促すことにはつながっていない。

■ 観光入込客数の推移及び内訳



資料:島根県観光動態調査

1-3-2. 宿泊者の内訳

浜田市を訪問する宿泊客の中で最も多いのは広島県在住者であり、次いで多いのが島根県在住者である。浜田市と広島県は高速道路で結ばれていることから交通の利便性が高いため広島県から訪問しやすくなっていると考えられる。また、東京都からの宿泊者数が毎年上位をに位置しているが、これは、隣接する益田市の萩・石見空港が、羽田空港との空路を有しているため、東京都から定期的に宿泊者が来ていると考えられる。

■ 居住都道府県別の延べ宿泊者数(日本人)

順位	201	3年	201	4年	201	5年	201	6年	201	7年	201	8年
1位	島根県	6506人	島根県	5227人	広島県	5684人	広島県	6602人	島根県	37344人	広島県	26513人
2位	広島県	5688人	広島県	4820人	島根県	5503人	島根県	6585人	広島県	32112人	島根県	22519人
3位	大阪府	2504人	大阪府	2840人	岡山県	2637人	大阪府	2826人	東京都	16994人	東京都	16834人
4位	東京都	1821人	岡山県	1507人	大阪府	2573人	東京都	2666人	兵庫県	15733人	大阪府	13131人
5位	鳥取県	1458人	兵庫県	1408人	東京都	2055人	福岡県	2616人	大阪府	13814人	長野県	13089人

資料: RESAS・観光マップ(2013-2018年)

1-3-3. 観光施設の分布

浜田市の主な観光施設の分布は以下の通りである。浜田漁港周辺に着目すると、しまねお魚センターをはじめ、多くの観光施設が立地している。沿岸部にも、多くの観光施設が立地している。石見海浜公園が最も入込客数が多いが、石見畳ヶ浦をはじめ海岸や海水浴場への入込客数も多くなっている。浜田市全域の釣りも入込客数の上位にきていることから、浜田市にとって海が大きな観光資源になっていることがわかる。山間部にも、温泉地等の観光施設が立地しており、浜田市は自然の観光資源にめぐまれた都市であると言える。

■ 浜田市の主な観光施設の分布

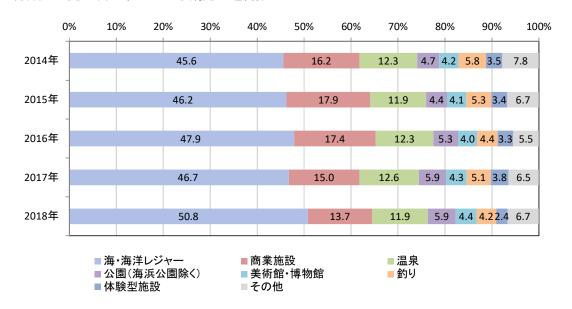


1-3-4. 入込客数と特徴的な観光資源

浜田市の施設別入込客数を下表のように分類すると、2018年(平成30年)は約50%が海・海洋レジャーに関する観光客となっている。次に割合が多くなっているのはしまねお魚センターや、ゆうひパーク等の商業施設である。

しまねお魚センターやゆうひパーク等の施設は、浜田市の特産物を多く取り扱っており、浜田市の魅力発信にも大きく寄与していることから、今後の観光振興においても重要な側面を有していると考えられる。

■ 分類別に見た浜田市における観光入込客数



■ 上記分類の内訳

No.	分類	小分類	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
INU.	刀規	エー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	50.755	52,215	47,876	48,126	49,975
1	美術館・博物館	石正美術館	17,216	17,011	15,085	12,718	10,176
'		エクス和紙の館	752	780	1,606	1,504	1,304
2	山・山岳レジャー	三階山	3,050	3,310	3,240	3,330	2,770
	ш-ш-т∨уү-	きんたの里		85,955			
			84,911		76,074	69,131	58,066
3	温泉	美又温泉	64,991	55,959	56,864	55,567	52,648
		旭温泉	48,362	54,568	56,709	52,377	47,851
		コワ温泉	4,731	6,040	6,371	6,191	6,730
4	芸能文化施設	石見の夜神楽公演	2,044	2,243	2,811	3,074	3,577
		石見海浜公園	584,620	614,240	600,550	520,250	539,920
		石見畳ヶ浦/国府海岸	81,320	83,250	78,210	76,350	83,280
5	海・海洋レジャー	浜田海岸	76,140	81,480	76,130	72,010	77,030
		折居海岸	3,490	3,860	3,790	3,850	3,920
		三隅海岸(田の浦公園含む)	5,680	5,240	4,900	4,660	3,200
6	釣り	浜田市全域釣り	95,770	90,530	69,990	74,390	58,350
7	商業施設	しまねお魚センター	147,638	178,076	154,454	129,837	103,994
,	尚未心故	道の駅ゆうひパーク三隅	119,828	126,652	122,686	88,099	86,667
8	公園(海浜公園除く)	アクアみすみ	65,950	67,216	69,622	70,157	68,568
0	8 公園(海洪公園除く)	三隅公園	10,820	8,530	14,180	15,320	14,040
9	体験型施設	かなぎウエスタンライディングパーク	31,030	31,995	30,861	35,045	28,459
9	冲歌至 加設	ふるさと体験村	26,351	25,904	21,896	19,638	4,920
		浜田市ゴルフ場	46,471	48,804	47,442	47,029	47,275
10	その他	アサヒテングストン	58,026	45,581	20,377	28,367	26,567
		三隅発電所ふれあいホール	18,606	14,808	13,344	12,058	13,034

資料:島根県観光動態調査

1-3-5. 観光振興に向けた取組み

浜田市では、観光振興に向け一般社団法人浜田市観光協会と浜田市が主体となって様々な事業を行っている。観光資源である石見神楽や浜田城を活用した観光振興を進めており、特に2018年度(平成30年度)から2019年度(令和元年度)にかけては、浜田開府400年祭の記念イベント等も行われている。

以下、浜田市における観光振興に向けた主な事業について、その概要を示す。

事業主体	主な事業	特徴		
	• 「ようこそ!浜田」事業	• 石見神楽の振興と浜田開府 400 年		
	• 浜田城周辺整備事業	に向けて「城山公園」を観光・交流		
近田士	• (仮称) はまだ歴史神楽館整備事業	の拠点にする。また、滞在型観光の		
浜田市 	• 浜田開府 400 年記念イベント事業	推進のため宿泊観光客の受入体制		
	• 石見神楽振興事業	の確保することとしている。		
	• 浜田国際交流助成事業			
	• 観光資源の開発並びに保存に関す	• 観光資源の保存とともに、それらを		
	る事業	活用した観光振興に努めている。		
	・郷土文化及び風光の紹介並びに宣	• 「はまナビ」は観光協会のポータル		
一般社団法人	伝に関する事業	サイトとして様々な観光情報を発		
浜田市観光協会	・ 郷土芸能等、民族的伝承の保護育成	信、特産品の販売をしている。		
	に関する事業			
	・観光情報の収集と発信並びに観光			
	事業の調査研究に関する事業			
	【浜田開府 400 年祭実行委員会】	• 浜田開府 400 年を記念したイベン		
	• 浜田開府 400 年記念イベント	トやガイドの養成等を実施してい		
	• 「はまだ市民ガイド」養成	る。活動は 2017 年度(平成 29 年		
その他	• 石州浜っ子まつり	度) から行われ、歴史文化の再認識		
	• 「全国の浜田さん、いらっしゃい」	だけでなく交流人口・関係人口の拡		
	事業	大を目指している。		
	• 開運・なんでも鑑定団 出張鑑定収録			

1-3-6. 観光振興の課題

観光客の二ーズは多様化しており、有名な観光地だけでなく、地域に眠っている観光資源を精査し、地域の観光商品として活用することが必要である。また、既存の観光事業者や団体・市民が連携した受入体制や観光施設の整備が求められている。

観光客の減少へ歯止めをかけ、経済波及効果を高めるためには、食や石見神楽等の地域資源を生かした滞在型観光につながる魅力づくりが必要である。

浜田漁港周辺エリアは、浜田市の中心市街地や観光拠点施設に近接しており、商港、漁港、観光拠点施設が一体となった「海」に関する機能が集積している。漁業、水産加工業等の海に関する生業のほか、買い物、釣りや海水浴等のマリンレジャーのフィールドとして、市民や観光客が日常的に集う場所になる可能性を持っている。そのため、新たに整備される山陰浜田公設市場を観光・地域活性化の起爆剤とすることが期待される。